



境の申し上げ祭り

はつかさん

第10号

発行
天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会
印刷
米子ワークホーム

申し上げ祭りの発祥は不詳ですが、収穫に感謝を申し上げる農耕儀礼として昔から行われている伝統文化です。
境では、毎年十二月の第一日曜日の午前八時に、境公民館に農家を中心となって集まります。
まず、最初に福田神社の相見神宮から荒神さん用の御幣(ごへい)と、水神さん用の御幣をもらい、三支部(東光寺・西原・明枝)それぞれに持ち帰ります。
持ち帰った御幣で、幣串(へいぐし)を十二本一束として(一年は十二月で十二本、うるう年は十三本)荒神さん用を作ります。それから、当番が準備した竹と御幣で、水神さん用の御幣を作ります。これは各家庭の井戸・田の水口・洗場などを祀るものです。

準備ができると、境の集落内四か所にある荒神さんに、神宮と数名が随行し、米と酒を供えお参りしお祓いを受けます。神事が終わると、直会(なおらい)が行われます。それぞれの支部で当番の順番が決まっています、その家で宴が催される習慣となっています。この直会も昼食を挟んだり、夕方から始めたりと様々だそうです。
今後この伝統文化を、守り続けて欲しいと思います。



荒神とは？

(日本大百科全書より)

一般に屋内のいろりやかまどなど、火を使う場所に火の神として祀(まつ)られる「三宝(さんぼう)荒神」と、屋外に祀られて屋敷神や、地域の守護神として機能する「地荒神」とに区別されている。いずれも験力あらたかな、荒々しく崇りやすい神と信じられている。

「三宝荒神」は不浄や災難を除去する神とされることから、火とかまどの神として信仰されるようになった。江戸時代にはどの台所にも必ず祀られていた。また、作神としての性格も認められるので、田植えのときに苗を供えたり、刈り上げのときに初穂を供えるなどの農耕儀礼と関わっている。

「地荒神」は、中国地方を中心に、四国や北九州地方で祀られている。多くの場合、旧家の屋敷地や山裾の自然木や大樹の下の塚を荒神と呼んで祀っている。昔から山の神、氏神として信仰されてきた。

特集 いきいきサロン紹介 ひまわり坂根



坂根のいきいきサロンの会員は、男性一人、女性十五人です。笑顔

「よらいや会」といって、毎月一日に

活動としては、遠くへ行くことはしませんが、みんなが集まって

30分間体操

もう幾つ寝ると

いきいきサロン

サロンに行って

腕挙げて

肩もグルグル

早く来い来い

いきいきサロン

今後も、「いきいきサロンに参

(世話人代表 亀尾 克栄)

あの人

この人

二人の駅長

天津地区には山陰鉄道の主要駅



米子駅長 田子 稔さん

米子駅は、山陰鉄道発祥の地で



鳥取駅長 陶山 正明さん

私は、昭和五十二年に旧国鉄に

鳥取駅は、一日平均約一万二千

教室紹介 ハワイアンフラ

私たちは、今年七月からふるさと交流センターでハワイアンフラをしています。

天津教室のメンバーにとっては初舞台となった文化祭、いかがだったでしょうか？応援に駆けつけてくれた子ども達は、何度も舞台を踏んでいる大先輩ですよ。

フラというと、蒼井優主演の『フラガール』を思い浮かべられるのではないのでしょうか。「ガール」ということで女性がするものと思われがちですが、実は、男性も女性も子どももお年寄りも出来る踊りです。



「フラ」は、ハワイ語で踊りという意味です。音楽に合わせて曲の持つ意味を踊りで表現しています。笑顔で優雅に踊るので、ストレス発散になったり、健康にも良いです。

このようなフラを月二回「楽しく／＼」をモットーに練習をします。子どもからお年寄りまで男女問わず楽しめますので、みなさん一緒にやってみませんか？お気軽に見学にお越しください！

(世話人 谷本)



活動内容	指導者	活動場所	活動日	会費
ハワイアンフラ	武良 範子 梶野 美和子	ふるさと交流センター 交流室	毎月第2・4木曜日 20時～21時	毎月1,000円 (小学生500円)

地域を盛り上げる 柏尾あつまら会

柏尾あつまら会

柏尾あつまら会は、平成十三年にできました。その前の年の運動会に参加した数名の若者が、応援合戦に参加しない、競技にも負けてばかりの柏尾を盛り上げたいと思ったのがきっかけです。初めは少なかった会員も徐々に増え、それにつれて、運動会の成績や応援の盛り上がりが上向きになってきました。

今では、運動会だけでなく、柏尾区や子ども会と協力しながら、区全体を盛り上げています。春には天津橋からつくし保育園までの土手掃除や花見、夏には箒地藏祭り、秋には小鷹神社祭りなど一年を通して活動をしています。若者



春の土手掃除

が集まって、ただ飲んでしゃべりまくる自分たちの楽しみもあり、区や子どもたちのための奉仕活動もありというところです。



小鷹神社の前で子ども会と

先日は小鷹神社の祭りがあり、例年のようにあつまら会の神輿を出しました。小鷹神社で七五三の祈禱をしてもらった子どもさんを神輿に乗せて区をまわり、お披露目をしました。子ども会とあつまら会の全員でワッショイワッショイと声をかけて歩きます。今年は、古くなった神輿のタイヤがパンクするというアクシデントもありましたが、それも含めて楽しく回ることができました。

これから、自分たちが楽しみながら、区を盛り上げていけたらいいなと思っています。



四季の子どもたち
 福田神社
 子ども神輿



毎年、敬老の日に谷川の福田神社例祭が行われます。谷川・四季・東西町から、それぞれ子ども神輿が練りだし、お祭りを盛り上げています。各地域をまわった後、三つの神輿が一緒になって福田神社まで担いでいきます。最後は、くじが配られ抽選会です。境内には抽選の度に大きな歓声が上がります。社を見下ろす「母塚山」にこだましています。



わっしょい
 わっしょい

大きな声で団地中を歩きます



お揃いの法被で記念撮影

当日は、心配されていた雨もやみ、絶好のお祭り日和でした。四季の子どもたちは、「わっしょいわっしょい」と大きな声で地域内を練り歩きました。おひねりが出るたび神輿を大きく揺さぶって御礼をします。

四季の子どもの人数は、全盛期にくらべ減ってきていますが、幼児の参加や中高生・有志の方が手伝ってくださるので、子ども神輿を継続していくことができます。地域の人々も交流ができるいい機会です。地域の活性化のため継続していきたいと思っています。

(四季育成会長 藤原)

編集後記

秋も深まり、大山の紅葉とともに雪化粧も始まりました。今年の初冠雪は、十月二十七日で、十月中の初冠雪は二〇〇四年以来六年ぶりだそうです。あっといって間に寒くなり、九月まで続いたあの猛暑がうそのように感じられました。これも異常気象の一つなのでしょう。

先日、今の子どもたちは、自然体験が不足しているのもっと増やさなければならぬという話を聞きました。確かに外で鬼ごっこやかくれんぼなどをして、走り回っている子どもは少ないように思えます。「外で遊んできなさい。」と親に言われて、外でゲームをして遊んでいる子どもがいると聞いたこともあります。最近の子どもはけしからん、と思ってしまうかもしれません。外で遊ぶ相手や時間がないのかもしれない。外で遊ぶ楽しさを知らないのかもしれない。そう考えると、何となく答えが見えてきませんか。

身のまわりの自然を大切にすることはもちろんのこと、自然の楽しみ方や怖さ、ありがたさ、美しいと感じる心なども子どもに伝えていきたいなあと思う今日この頃です。